

神奈川県地域医療支援センター運営委員会 次第

日時 令和4年3月15日（火）18時30分から20時30分

場所 総合医療会館2階 会議室A

1 開 会

2 議 事

(1) 協議事項

ア キャリアコーディネーターの配置について

(ア) 令和4年度キャリアコーディネーターの配置方針（案）について

(イ) 令和5年度キャリアコーディネーター本格配置に向けた対応方針について

【資料1】

イ 修学資金貸与者に係る臨床研修終了後の配置調整（案）について

【資料2-1】 【資料2-2】

(2) 報告事項

ア 「神奈川県地域医療枠／市大地域医療枠」医師の勤務先について

【資料2 参考3】

イ 医師需給分科会第5次中間とりまとめの概要について

【資料3】

ウ 令和4年度神奈川県地域医療支援センター事業計画について

【資料4】

(3) その他

3 閉 会

【資料】

資料 1 : キャリアコーディネーターの配置について

(参考 1-1) : (厚労省通知) 「キャリア形成プログラム運用指針」の一部改正について

(参考 1-2) : キャリア形成プログラム運用指針 (全文)

(参考 2) : (厚労省通知) 地域医療介護総合確保基金 (医療分) に係る標準事業例の取扱いについて

(参考 3) : (厚労省会議資料 (抜粋)) 第 8 次医療計画、地域医療構想等について

(参考 4) : (千葉県提供資料) 医師修学資金制度と医師のキャリア形成

資料 2-1 : 修学資金貸与医師の臨床研修修了後の配置調整 (案) について

資料 2-2 : 令和 4 年 4 月から勤務する修学資金貸与医師の配置調整 (案)

(参考 1) : 修学資金貸与医師配置状況 (令和 4 年 3 月時点)

(参考 2) : キャリア形成プログラムに基づく地域枠医師の配置について

(参考 3) : 「神奈川県地域医療枠／横浜市大地域医療枠」医師の勤務先

資料 3 : 医師需給分科会第 5 次中間とりまとめの概要

(参考 1) : (厚労省会議資料) 医師需給分科会第 5 次中間とりまとめ (全文)

資料 4 : 令和 4 年度神奈川県地域医療支援センター事業計画について

神奈川県地域医療支援センター運営委員会（令和4年3月15日）出席者名簿

【委員】

（五十音順）

役 職	氏 名	備 考
学校法人北里研究所北里大学医学部 教授	石倉 健司	オンライン参加
全国自治体病院協議会神奈川県支部 支部長 (三浦市立病院総病院長)	小澤 幸弘	
学校法人聖マリアンナ医科大学医学部長	加藤 智啓	
公益社団法人神奈川県病院協会 副会長	窪倉 孝道	オンライン参加
公益社団法人神奈川県医師会 理事	小松 幹一郎	
学校法人東海大学医学部 教授	鈴木 秀和	オンライン参加
公立大学法人横浜市立大学 医学部長	寺内 康夫	オンライン参加
神奈川県顧問	康井 制洋	
地方独立行政法人神奈川県立病院機構 副理事長	山下 純正	

【事務局】

役 職	氏 名
神奈川県地域医療支援センター長 (神奈川県健康医療局保健医療部保健医療人材担当課長)	西 海 昇
神奈川県地域医療支援センター事務局長 (神奈川県健康医療局保健医療部医療課課長代理)	中 村 佐知子
同 人材確保グループ 主査	柳 田 雄 一
同 人材確保グループ 主事	長 田 陽 介
同 人材確保グループ 主事	岸 春 奈
同 人材確保グループ 主事	井 上 隆 之



キャリアコーディネーターの配置について

2022/3/15（火）

令和3年度第2回神奈川県地域医療支援センター運営委員会

本日はご議論いただきたい内容

(1) - ア - (ア)

令和4年度キャリアコーディネーターの配置方針（案）について

- ・令和4年度からキャリアコーディネーター（以下、「CC」とする。）の配置が国指針上、求められており、令和4年度限りの対応として地域医療支援センター長（県保健医療人材担当課長）をCCに配置する。
- ・これまでの経過を報告させていただくので、協議いただきたい。

(1) - ア - (イ)

令和5年度キャリアコーディネーター本格配置に向けた対応方針について

- ・令和5年度以降のCC本格配置について課題、対応方針を検討したく、作成した事務局方針（案）について、御意見をいただきたい。



議題（１）－ア－（ア）

令和４年度キャリアコーディネーターの配置方針（案）について

2022/3/15（火）

令和３年度第２回神奈川県地域医療支援センター運営委員会

1 これまでの経過

- 各都道府県にCCを配置しようとする国の動きがあることを踏まえ、第1回運営委員会（R3.11）にて先行議論を行ったところ。
- その後、国から指針の一部改正が通知（R3.12）され、令和４年度からのCC配置が義務化された。

【これまでの経過】

	令和３年６月以前	７～９月	１０月～１２月	令和４年１～３月
国の動き	地域医療介護総合確保基金に係る標準事業例の取扱い通知(2/19) ↳ CC人件費・調整経費への基金の活用が可能に	国医療政策研修会①(8/13～)【Web開催】 ↳ 千葉県によるCC取組紹介	キャリア形成プログラム運用指針の一部改正通知(12/1) ↳ 令和４年度からCC配置義務化 改正に係る国説明会(12/16, 20)【Web開催】	国医療政策研修会②(1/21～)【Web開催】 千葉県との意見交換(3/1)【Web開催】 ↳ CC配置に係る意見交換、課題整理等
会議スケジュール			①運営委員会(11/10) ⇒ CC配置を見据えた先行議論	②運営委員会(本日)

2 当会における先行議論

- 改正指針通知前の令和3年11月10日に開催した第1回地域医療支援センター運営委員会において、千葉県の取組を紹介した上で、当県におけるCC配置に向けた先行議論（議論当時はCCの任意配置を想定）を行ったところ、次のようなご意見があった。

内容	ご意見
CCの配置について	<ul style="list-style-type: none">・ 学生、初期研修医、専門医のキャリアパスの中で、地域枠医師が相談できるCCの存在は非常に重要。・ 地域枠医師、大学医局、地域の医療機関のステークホルダー間の調整が重要かつ避けられないテーマとなっており、検討を要して取り組むべき課題と考える。
CCの配置形式について	<ul style="list-style-type: none">・ 当県（県内4大学医局、指定診療科制限あり、地域医療制限が機能していない）と千葉県（県内1大学医局、指定診療科制限なし、地域医療制限あり）は違いがあり、（千葉県CC制度と）神奈川県のCC制度は変えて考える必要がある。・ 県内4大学医学部に1名ずつCCを置き、その上で県内医療機関にキャリアサポーター（メンター）を置いて、県にコーディネートするような組織がないと機能しないのではないか。
その他ご意見	<ul style="list-style-type: none">・ 各大学医局に神奈川県の地域枠制度の考え方を浸透させた後に、CCを選出する形にしないか機能しないのではないか。

✓ これらの意見を踏まえ、CC配置について前向きに議論を継続的に
行うこととした。

5

3 「キャリア形成プログラム運用指針」の一部改正について

- 医師偏在対策の更なる推進のため、令和3年12月1日付で「キャリア形成プログラム運用指針」の一部が改正され、CCの配置義務化を含む、以下の項目が追加された。

1. キャリアコーディネーターの配置

都道府県は、医師偏在対策と地域枠医師等のキャリア形成の両立を円滑に推進するため、派遣先について対象医師と大学等の専門医の研修プログラム責任者等との調整を行うとともに、対象学生の支援を行う人材（キャリアコーディネーター）を配置する



2. 修学資金貸与対象者の明確化（確保基金）

地域医療に従事する医師を増加させるため、別枠で選抜された地域枠の学生だけではなく、それ以外の学生においても、本人の希望により卒業後にキャリア形成プログラムを適用する場合は、都道府県が行う修学資金の貸与に対し、地域医療介護総合確保基金の活用を可能とする



3. キャリア形成プログラムの充実

キャリア形成プログラムの更なる充実に向けて、都道府県は、地域枠医師等の意見を参考に、研修環境の整備や勤務負担の軽減に努めるものとし、就業開始後も、満足度等を含む意見聴取を定期的
に実施する



4. キャリア形成卒前支援プランの策定

地域医療に従事することを希望する者が、学生・臨床研修の期間を通してその意思を継続することができるよう、都道府県は、「キャリア形成卒前支援プラン」を策定し、学生の地域医療マインド涵養のために、地域医療に関する実習や講義の支援等を行う



※キャリア形成卒前支援プランの適用は令和5年度以降

6

4 キャリアコーディネーターについて

主な業務内容	①対象医師の就業場所、就業状況等の要望聴取 ②病院見学会や勉強会の補助 ③大学等の研修プログラム責任者等と都道府県と対象医師の要望を調整した派遣計画の検討 ④キャリア形成卒前支援プランの運営補助 等
求められる人物像	①地域医療支援センターの医師等、学生の教育課程や医師の研修等に十分な見識がある者（大学が複数存在する場合は、複数人の配置が望ましい） ②長期間（10年～15年程度）に渡り、対象医師及び学生との信頼関係の構築や大学等との調整ができることが望ましい

- ✓ 令和4年度からのCC配置が指針で求められているが、業務内容、人物像ともにハードルが高く、適任者の検討、選任の調整に時間を要する。
⇒令和4年度はCCを一時的な対応として配置し、令和5年度に向けてCCを本格配置するとして分けて検討すべきではないか。

7

5 論点①

(1) - ア - (ア)

令和4年度キャリアコーディネーターの配置方針（案）について

- ・令和4年度からキャリアコーディネーター（以下、「CC」とする。）の配置が国指針上、求められており、令和4年度限りの対応として地域医療支援センター長（県保健医療人材担当課長）をCCに配置する。
- ・これまでの経過を報告させていただくので、協議いただきたい。

(1) - ア - (イ)

令和5年度キャリアコーディネーター本格配置に向けた対応方針について

- ・令和5年度以降のCC本格配置について課題、対応方針を検討したく、作成した事務局方針（案）について、御意見をいただきたい。

8



議題（１）－ア－（イ）

令和５年度キャリアコーディネーター本格配置に向けた対応方針について

2022/3/15（火）

令和３年度第２回神奈川県地域医療支援センター運営委員会

1 令和５年度ＣＣ本格配置に向けた課題の整理

- これまでの議論及び改正指針内容からＣＣ本格配置に向けた課題を下記のとおり整理した。

課題

課題①：ＣＣの配置形式について

→ 県内４大学医学部にＣＣを１名置き、その上で、県地域医療支援センターに統括のＣＣを置く方針としてよいか。

課題②：ＣＣの選任について

→ 業務内容、求められる人物像に適応した医師（年齢は４０代を想定）について、課題①の方針を踏まえ、大学、医療団体あて推薦を依頼し、県統括ＣＣ、大学配置ＣＣの選任に向けた調整を行う形式としてよいか。

課題③：指定診療科制、地域医療のあり方の整理について

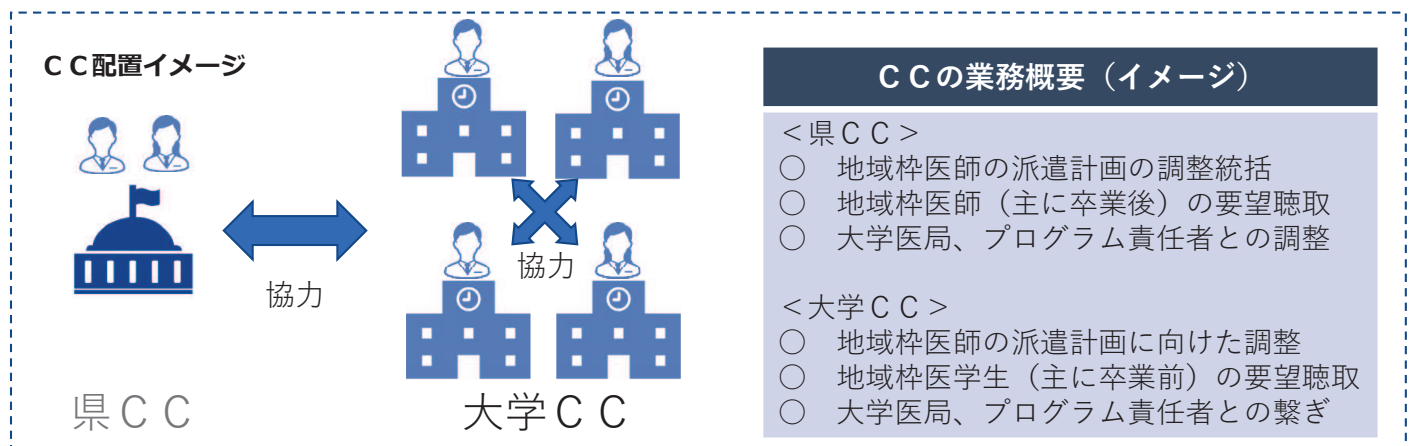
→ ＣＣの配置に当たって、各大学医局に神奈川県の地域枠制度の考え方を浸透させることが重要なことから、次期保健医療計画（医師確保計画）策定とあわせ、指定診療科制、地域医療のあり方を整理してよいか。

2 課題① CCの配置形式について

○ 今後の方針（案）

県内4大学医学部にCCを1名置き、その上で、県地域医療支援センターに統括のCCを置く方針としてよいか。

⇒CC配置に当たっては、地域医療介護総合確保基金の活用も含め、検討する（県財政当局と要調整）こととしたい。



11

<参考> 基金に係る標準事業例の取扱いについて

- 基金の有効かつ効率的な活用を図るため、令和3年2月19日付で「地域医療介護総合確保基金(医療分)に係る標準事業例の取扱い」が整理され、CCの人件費及び、当該調整に係る経費について、基金の対象として差し支えないことが通知されている。

地域医療介護総合確保基金（医療分）の対象事業の取扱い（抜粋）

2. 事業区分Ⅳについて

事業区分Ⅳについては、「医療従事者の確保に関する事業」を対象としていますが、以下に掲げる経費についても、下記の事業に関連するものとして対象として差し支えありません。

（1）標準事業例

「25. 地域医療支援センターの運営（地域枠に係る修学資金の貸与事業、無料職業紹介事業、定年退職後の医師の活用事業を含む）」

① 地域枠医師等の勤務先を、各医師の希望や各地域の医師偏在の状況を勘案しつつ調整を行うキャリア形成と医師偏在対策の両立を円滑に推進するための人材（キャリアコーディネーター）の人件費及び、当該調整に係る経費



12

<参考> キャリア形成プランについて

- CCは、キャリア形成プログラムに従ったキャリア形成プラン（地域枠医師本人・管理者（大学医局又は従事先）・県庁の3者で毎年末申合せ）を作成（更新）することで、地域枠医師本人、管理者に地域医療期間を含めた地域枠制度の義務履行期間を意識付ける機会を設ける。

キャリア形成プラン【新プログラム】			
氏名	〇〇大学	医師修学資格 コース名	長期支援コース
卒業大学	〇〇大学	義務年数	9年
連絡先 (電話番号)	043-〇〇〇-〇〇〇〇	連絡先 (メールアドレス)	〇〇@〇〇
地域A群日勤過算必要勤務年数	4年	地域A群必要勤務年数	2年
キャリア形成支援機関	〇〇大学附属病院		
診療科(基本領域)	〇〇科		
診療科別コース管理者 (所属 職 氏名)	〇〇科 科長・教授 〇〇××		
診療科別コース管理者連絡先	043-〇〇〇×-〇〇〇〇 〇〇@〇〇.jp		
年	医療機関群	勤務先病院・診療科名	研修・試験
20xx年 1年目	臨床研修病院群	〇〇大学附属病院	臨床研修
20xx年 2年目	臨床研修病院群	〇〇大学附属病院	臨床研修
20xx年 3年目	県内病院群	〇〇大学附属病院	専門研修(基幹)
20xx年 4年目	地域A群	1さんむ医療セティング	専門研修(連携)
20xx年 5年目	地域B群	成田赤十字病院	専門研修(連携)
20xx年 6年目	県内病院群	〇〇大学附属病院	〇〇科専門医試験
20xx年 7年目	県内病院群	〇〇大学附属病院	
20xx年 8年目	猶予1	〇〇大学附属病院	△△△科専門医試験
20xx年 9年目	地域A群	東千葉メディカルセンター	
20xx年 10年目	地域B群	総合病院区保旭中央病院	

キャリア形成プラン の実際

義務履行終了までの 勤務予定を記載



15

2 課題③ 指定診療科制、地域医療のあり方の整理について

○ 今後の方針(案)

CCの配置に当たって、大学医局等に神奈川県の地域枠制度の考え方を浸透させることが重要なことから、次期保健医療計画(医師確保計画)策定とあわせ、指定診療科制、地域医療のあり方を整理してよいか。

⇒第8次医療(医師確保)計画策定とあわせて見直しを図ることとしたい。

県地域枠制度の課題

<指定診療科制度>

産科、小児科など7指定診療科に従事可能な診療科を限定しており、近年、志望診療科の相違を理由とする離脱が増。

<地域医療のあり方>

現行計画で県内に医師少数区域が設定できなかったことも背景に、事実上県内であればどこで従事しても構わない状態となっている。

県地域枠制度の見直し検討イメージ

<指定診療科制度>

更なる指定診療科の見直し(診療科の拡大、撤廃等)の検討。

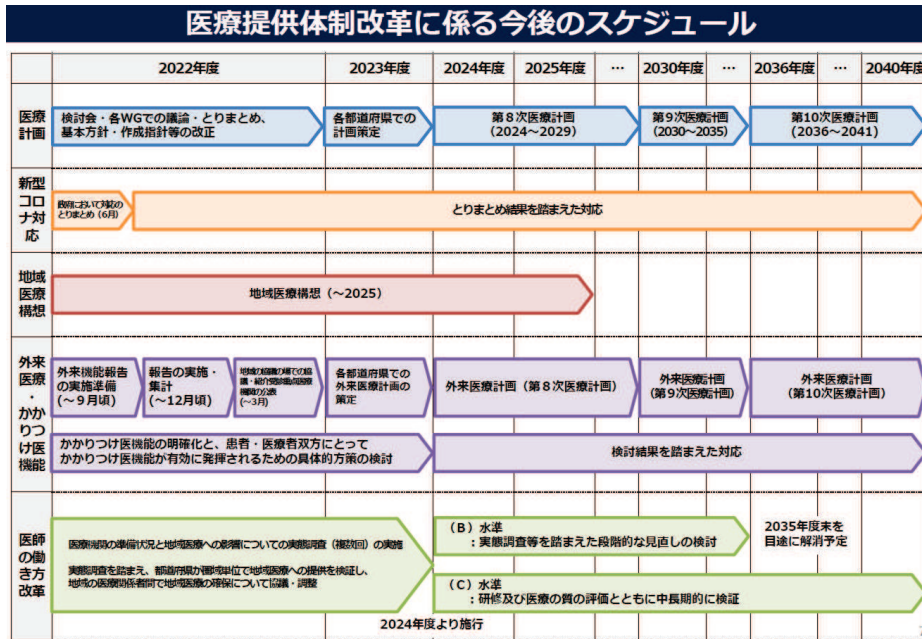
<地域医療のあり方>

指定診療科を拡大(撤廃)する代わりに、県内医師不足区域、中小病院に従事する地域医療履行期間を厳格化する措置の検討。
⇒次期計画と整合性を取る。

16

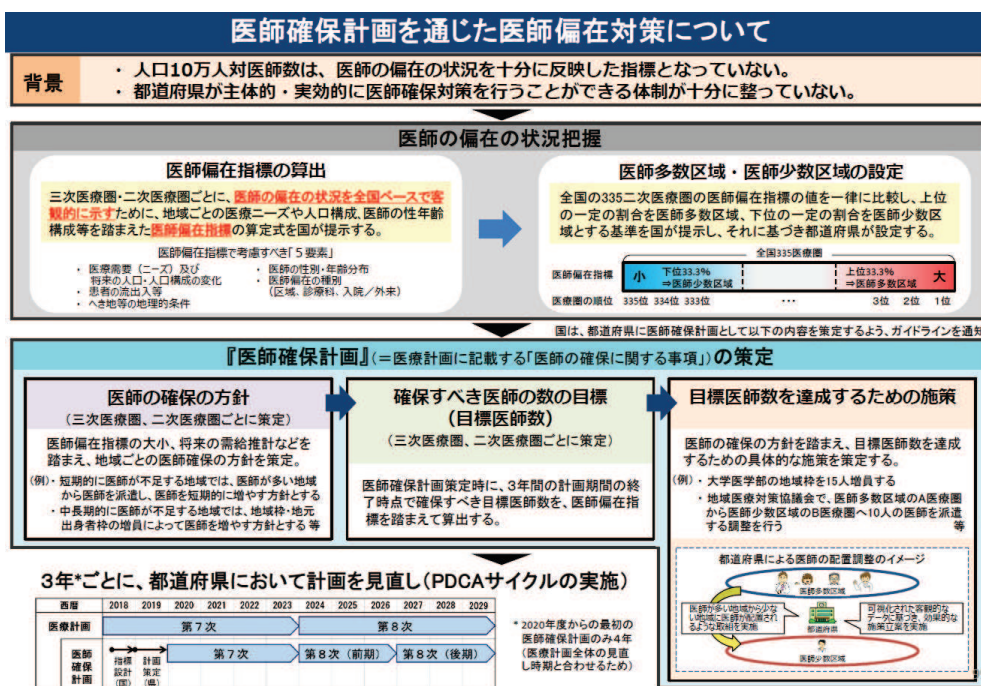
<参考> 第8次医療計画について①

○ 第8次医療計画策定に向けたスケジュールは以下のとおり。



令和4年3月4日 厚生労働省 第7回8次医療計画等に関する検討会資料より抜粋 17

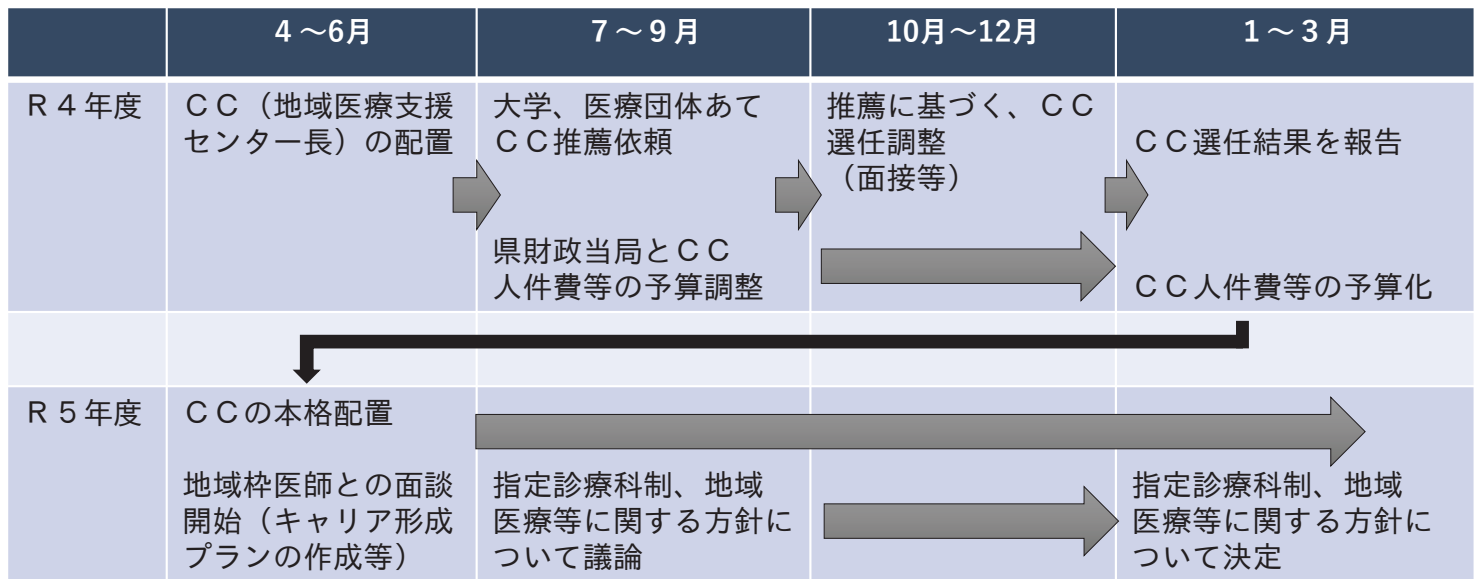
<参考> 医師確保計画概要



令和4年3月4日 厚生労働省 第7回8次医療計画等に関する検討会資料より抜粋 18

3 今後のスケジュールについて

○ CC配置に向けたスケジュールは以下のとおり。



4 論点②

(1) - ア - (ア)

令和4年度キャリアコーディネーターの配置方針（案）について

- ・令和4年度からキャリアコーディネーター（以下、「CC」とする。）の配置が国指針上、求められており、令和4年度限りの対応として地域医療支援センター長（県保健医療人材担当課長）をCCに配置する。
- ・これまでの経過を報告させていただいたので、協議いただきたい。

(1) - ア - (イ)

令和5年度キャリアコーディネーター本格配置に向けた対応方針について

- ・令和5年度以降のCC本格配置について課題、対応方針を検討したく、作成した事務局方針（案）について、御意見をいただきたい。



修学資金貸与医師の臨床研修修了後の 配置調整（案）について

2022/3/15（火）

令和 3 年度第 2 回神奈川県地域医療支援センター運営委員会

1

本日はご議論いただきたい内容

**修学資金貸与医師の臨床研修修了後の配置調整について、
資料 2 - 2 の配置調整（案）としてよいか。**

- ・ 現在、修学資金貸与医師で臨床研修 2 年目の 15 名が、令和 4 年 3 月末で臨床研修を修了する予定である。
- ・ 令和 4 年 4 月からの指定医療機関を決定(配置調整)する必要がある。

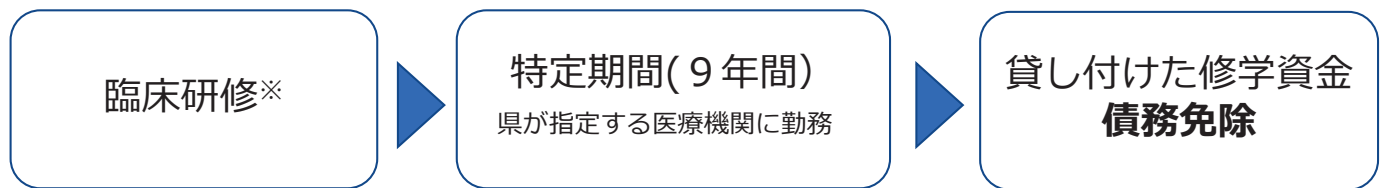
2

1. 修学資金貸与制度について

○ 趣旨説明

修学資金貸与医師

- 産科等医師修学資金貸与医師（以下、「産科等医師」）
- 地域医療医師修学資金貸与医師（以下、「地域医療医師」）



※ 令和元年7月に条例を改正し、当該医師が令和2年3月までにキャリア形成プログラムを選択した場合、特定期間9年間が7年間に短縮される。

3

1. 修学資金貸与制度について

○ 趣旨説明

義務年限		
1～2年目	3～5年目	6～9年目
臨床研修 県内の臨床研修病院 ※平成30年度以前の入学者はキャリア形成プログラムへの参加を前提として不問	専門研修 県内の基幹施設 ※期間はプログラムで研修に必要なとしている期間	地域医療実践 <u>キャリア形成プログラムに搭載されている「地域実践」医療機関</u> ※対象医療機関は毎年調査の上、選定 (勤務地域は今後検討)

4

1. 修学資金貸与制度について

(参考) 具体的な配置方法イメージ

ア 卒後1～2年目（臨床研修）

- 地域枠医師は県内臨床研修病院の中から希望する医療機関を選択

イ 卒後3～5年目（専門研修）

- 県内の専門研修基幹施設のプログラムを履修し、県内医療機関に配置
- 医師の希望により専門研修は履修せず、「地域実践」医療機関からの選択も可能

ウ 卒後6～9年目（地域実践期間）

- 派遣先医療機関の受入希望状況を把握し、派遣予定医師に情報提供
- 地域枠医師は派遣先医療機関リストから従事したい医療機関を選択
- 各地域枠医師は希望する理由を明らかにして、派遣希望配置先（優先順位をつけて複数）を県に回答
- 県では、地域枠医師の理由を踏まえ、希望を尊重し、医療対策協議会において派遣先の承認手続きを行う

5

2. 対象医師配置（案）について

資料2-2 「令和4年4月から勤務する修学資金貸与医師の配置調整（案）」のとおり


○ 対象医師：15名（令和2年3月大学卒業）

大学名	対象人数	備考
横浜市立大学	5名	(平成25年4月入学者1名 平成26年4月入学者4名)
聖マリアンナ医科大学	3名	(平成25年4月入学者1名 平成26年4月入学者2名)
北里大学	3名	(平成24年4月入学者1名 平成26年4月入学者2名)
東海大学	4名	(平成26年4月入学者4名)

6

3. 配置までのスケジュール

○ これまでの経緯と今後の流れ

	令和3年6月以前	7～9月	10～12月	令和4年1～3月	令和4年4月～
手続き関係	誓約書を送付 修学資金貸与医師に対するキャリア形成プログラムへの参加 (3月25日)	臨床研修終了後の意向調査 修学資金貸与医師に、専門医の取得希望及び希望する専門研修病院を調査 (7月1日)		協定締結 指定病院決定通知書を修学資金貸与医師に送付 (3月末) 	指定病院で修学資金貸与医師が勤務を開始
会議			11月10日 第1回地域医療支援センター運営委員会 ・地域枠医師の離脱 ・地域域枠医師の配置 について報告	3月15日 第2回地域医療支援センター運営委員会 ・修学資金貸与医師の配置調整(案)を協議 3月29日 医療対策協議会へ報告	

令和4年4月から勤務する修学資金貸与医師の配置調整（案）

番号	対象者 (修学生番号)	氏名	修学資金	大学	臨床研修先	指定 診療科	キャリア 形成プログラム 参加届出	令和4年度からの 専門医取得意向調査(R3.6.22)結果			令和4年度からの 専門医取得意向調査確認結果			令和4年4月からの配 置調整（案）		
								取得意向	第1希望	第2希望	第3希望	取得意向	専門研修を 行いたい 「基幹施設」	専門研修を 行いたい 「専門研修 プログラム」	専門研修を行う 「基幹施設」	専門研修 プログラム
1			産科等医師 修学資金	横浜市立 大学	横浜南共済病 院	産科	済	取得した い	横浜南共済 病院	横須賀共済 病院	大和市立病 院	取得した い	横浜市立大学 附属市民総合 医療センター	産科	横浜市立大学附属 市民総合医療セ ンター	産科
2			産科等医師 修学資金	横浜市立 大学	藤沢市民病院	外科	済	取得した い	横浜市立大 学附属病院			取得した い	横浜市立大学 附属病院	小児科	横浜市立大学附属 病院	外科
3			産科等医師 修学資金	横浜市立 大学	小田原市立病 院	外科	済	令和5年 から行い たい	小田原市立 病院	相模原協同 病院	済生会横浜 市南部病院	令和5年 度から行 いたい	小田原市立病 院	外科	小田原市立病院	外科
4			産科等医師 修学資金	横浜市立 大学	藤沢市民病院	小児科	済	取得した い	藤沢市民病 院	神奈川県立 こども医療 センター	済生会横浜 市南部病院	取得した い	横浜市立大学 附属病院	小児科	横浜市立大学附属 病院	小児科
5			産科等医師 修学資金	横浜市立 大学	けいゆう病院	外科	済	取得した い	横浜市立大 学附属市民 総合医療セ ンター	横浜市立大 学附属病院		取得した い	横浜市立大学 附属病院	外科	横浜市立大学附属 病院	外科
6			地域医療医 師修学資金	北里大学	北里大学病院	麻酔科	済	取得した い	北里大学病 院	川崎市立川 崎病院	帝京大学附 属溝口病院	取得した い	北里大学病院	麻酔科	北里大学病院	麻酔科
7			地域医療医 師修学資金	北里大学	川崎協同病院	産科	済	令和5年 から行い たい	北里大学病 院			令和5年 度から行 いたい	川崎協同病院	産科	川崎協同病院	産科
8			地域医療医 師修学資金	北里大学	北里大学病院	内科	済	取得した い	北里大学病 院	横浜労災病 院	横浜市立み なと赤十字 病院	取得した い	北里大学病院	内科	北里大学病院	内科
9			地域医療医 師修学資金	聖マリア ンナ医科 大学	東戸塚記念病 院	内科	済	取得した い	横浜市立大 学附属市民 総合医療セ ンター	横浜市立大 学附属病院		取得した い	横浜市立大学 附属病院	内科	横浜市立大学附属 病院	内科
10			地域医療医 師修学資金	聖マリア ンナ医科 大学	聖マリアンナ 医科大学病院	内科	済	取得した い	聖マリアン ナ医科大学 病院			取得した い	聖マリアンナ 医科大学病院	内科	聖マリアンナ医科 大学病院	内科
11			地域医療医 師修学資金	聖マリア ンナ医科 大学	昭和大学横浜 市北部病院	救急科	済	取得した い	昭和大学病 院			取得した い	昭和大学病院	救急科	昭和大学病院	救急科
12			地域医療医 師修学資金	東海大学	横浜市立大学 附属市民総合 医療センター	小児科	済	取得した い	横浜市民病 院	横浜市立大 学附属病院		取得した い	横浜市立大学 附属病院	小児科	横浜市立大学 附属病院	小児科
13			地域医療医 師修学資金	東海大学	東海大学医学 部附属病院	小児科	済	取得した い	東海大学医 学部附属病 院			取得した い	東海大学医学 部附属病院	小児科	東海大学医学部附 属病院	小児科
14			地域医療医 師修学資金	東海大学	東海大学医学 部附属病院	外科	済	取得した い	東海大学医 学部附属病 院			取得した い	東海大学医学 部附属病院	外科	東海大学医学部附 属病院	外科
15			地域医療医 師修学資金	東海大学	筑波大学附属 病院	小児科	済	取得した い	神奈川県立 こども医療 センター	東海大学医 学部附属病 院		取得した い	神奈川県立こ ども医療セ ンター	小児科	神奈川県立こども 医療センター	小児科

キャリア形成プログラムに基づく地域枠医師の配置について

1 趣旨・背景

- 平成29年 2月14日付け国通知「地域医療介護総合確保基金を活用した医師修学資金貸与事業の取扱いについて」により、原則として産科等医師修学資金貸与医師、地域医療医師修学資金貸与医師及び横浜市立大学地域医療枠医師（以下、「地域枠医師」）に個人別のキャリア形成プログラムを策定し、適用することが必要となった。

＜キャリア形成プログラム＞

地域における医師不足や地域偏在の解消と、専門医の取得といった医師能力の開発・向上を目的として、診療科別に義務年限中の就業先となる医療機関等を選択肢として、都道府県が主体として策定した医師就業に係るプログラム

2 検討事項

- 地域枠医師に対し、策定したキャリア形成プログラムを適用することとなったため、配置に向けての基本的枠組みを整理する。

3 配置の基本的枠組み

(1) 現行

＜修学資金貸与医師＞

義務年限外	義務年限	
1～2年目	3～5年目	6～11年目
<p>臨床研修</p> <p>初期臨床研修病院 ※30年度入学者から 県内での履修が必須</p>	<p>専門研修</p> <p>県内の基幹施設 ※期間は研修プログラム が必要としている期間</p>	<p>地域医療実践</p> <p>県内で医師が不足している地域の病院等 ※大枠のイメージのみで細かな規定なし</p>

＜横浜市立大学地域医療枠医師＞

義務年限		
1～2年目	3～5年目	6～9年目
<p>臨床研修</p> <p>初期臨床研修病院</p>	<p>専門研修</p> <p>県内の基幹施設 ※期間は研修プログラム が必要としている期間</p>	<p>地域医療実践</p> <p>県内で医師が不足している地域の病院等 ※大枠のイメージのみで細かな規定なし</p>

(2) 変更後

<キャリア形成プログラム加入医師>

義務年限		
1～2年目	3～5年目	6～9年目
<p>臨床研修</p> <p>県内の初期臨床研修病院</p> <p>※平成30年度以前の入学者はキャリア形成プログラムへの参加を前提として不問</p>	<p>専門研修</p> <p>県内の基幹施設</p> <p>※期間はプログラムで研修に必要としている期間</p>	<p>地域医療実践</p> <p>キャリア形成プログラムに搭載されている「地域実践」医療機関</p> <p>※対象医療機関は毎年調査の上、選定（勤務地域は今後検討）</p>

<具体的な配置方法イメージ>

ア 卒後1～2年目（臨床研修）

- ・地域枠医師は県内臨床研修病院の中から希望する医療機関を選択

イ 卒後3～5年目（専門研修）

- ・県内の専門研修基幹施設のプログラムを履修し、県内医療機関に配置
- ・医師の希望により専門研修は履修せず、「地域実践」医療機関からの選択も可能

ウ 卒後6～9年目（地域実践期間）

- ・派遣先医療機関の受入希望状況を把握し、派遣予定医師に情報提供
- ・地域枠医師は派遣先医療機関リストから従事したい医療機関を選択
- ・各地域枠医師は希望する理由を明らかにして、派遣希望配置先（優先順位をつけて複数）を県に回答
- ・県では、地域枠医師の理由を踏まえ、希望を尊重し、医療対策協議会において派遣先の承認手続きを行う

(3) その他

- 専門医取得研修の取扱いや継続従事期間の算定方法等については、従前と同様に、「修学資金貸与医師の県内医療機関への配置方針」に基づき、配置する。

横浜市立大学地域医療卒医師の勤務先

入学 *1	卒業	卒業年数 (R3.4月現在)	医療機関	所在地	備考	
H20	1	H26	8年目	大口東総合病院(泌尿器科)	神奈川県	
H20	2	H26	8年目	不明	不明	繰り延べ1年
H20	3	H26	8年目	横浜医療センター(外科)	神奈川県	
H20	4	H26	8年目	神奈川県立こども医療センター(麻酔科)	神奈川県	
H20	5	H26	8年目	大学院生、附属病院非常勤(整形外科)	神奈川県	
H20	6	H26	8年目	不明	不明	繰り延べ6年
H20	7	H26	8年目	更別村国民健康保険診療所	北海道	繰り延べ6年
H20	8	H26	8年目	横浜南共済病院(産婦人科)	神奈川県	
H20	9	H26	8年目	横浜市立大学附属病院(小児科)	神奈川県	
H20	10	H26	8年目	県立こども医療センター(泌尿器科)	神奈川県	
H20	11	H26	8年目	勤医協札幌病院(内科・産婦人科)	北海道	繰り延べ6年
H20	12	H26	8年目	不明	不明	繰り延べ2年
H20	13	H26	8年目	不明	不明	繰り延べ5年
H20	14	H26	8年目	不明	不明	繰り延べ4年
H20	15	H26	8年目	横須賀共済病院(皮膚科)	神奈川県	
H20	16	H26	8年目	横浜労災病院(脳神経外科)	神奈川県	繰り延べ1年
H20	17	H27	7年目	湘南美容外科	神奈川県	繰り延べ2年
H20	18	H26	8年目	不明	不明	繰り延べ1年
H20	1	H27	7年目	不明	不明	繰り延べ1年
H20	2	H27	7年目	県立循環器呼吸器病センター(循環器内科)	神奈川県	繰り延べ1年
H21	3	H27	7年目	不明	不明	繰り延べ4年
H21	4	H27	7年目	横浜労災病院(循環器内科)	神奈川県	
H21	5	H27	7年目	藤沢湘南台病院(外科)	神奈川県	
H21	6	H27	7年目	不明	不明	繰り延べ2年
H21	7	H27	7年目	横浜労災病院(外科)	神奈川県	
H21	8	H27	7年目	横浜労災病院(形成外科)	神奈川県	
H21	9	H27	7年目	横浜市大附属市民総合医療センター(消化器内科)	神奈川県	繰り延べ2年
H21	10	H27	7年目	横浜市大附属病院(小児科)	神奈川県	
H21	11	H27	7年目	横浜市立市民病院(救急科)	神奈川県	繰り延べ3年
H21	12	H27	7年目	小田原市立病院(小児科)	神奈川県	繰り延べ1年
H21	13	H27	7年目	横浜市立大学附属病院(消化器外科)	神奈川県	
H21	14	H27	7年目	湘南美容外科	神奈川県	
H21	15	H27	7年目	足柄上病院(泌尿器科)	神奈川県	
H21	16	H27	7年目	横浜市大附属市民総合医療センター(外科)	神奈川県	
H21	17	H27	7年目	横浜市立市民病院(麻酔科)	神奈川県	
H21	18	H27	7年目	不明	不明	繰り延べ1年
H21	19	H27	7年目	不明	不明	繰り延べ1年
H21	20	H27	7年目	横浜市大附属市民総合医療センター(消化器内科)	神奈川県	
H21	21	H27	7年目	横浜市立大学附属病院(呼吸器内科)	神奈川県	
H21	22	H27	7年目	横浜市立大学附属病院(産婦人科)	神奈川県	繰り延べ1年
H21	23	H27	7年目	汐田総合病院(神経内科)	神奈川県	
H21	24	H27	7年目	横浜市立みなと赤十字病院(外科)	神奈川県	
H21	25	H27	7年目	横須賀共済病院(救急科)	神奈川県	
H21	26	H27	7年目	同愛記念病院(小児科)	東京都	繰り延べ5年
H21	27	H27	7年目	やまと診療所(在宅医療)	東京都	繰り延べ5年
H22	1	H28	6年目	横浜市立大学附属病院(内科)	神奈川県	

H22	2	H28	6年目	国際医療福祉大学成田病院(内科)	千葉県	繰り延べ4年
H22	3	H28	6年目	横浜医療センター(救急科)	神奈川県	
H22	4	H28	6年目	川崎市立井田病院(内科)	神奈川県	
H22	5	H28	6年目	三井記念病院(消化器内科)	東京都	繰り延べ4年
H22	6	H28	6年目	横浜市立大学附属病院(皮膚科)	神奈川県	繰り延べ1年
H22	7	H28	6年目	横浜市立大学附属病院(整形外科)	神奈川県	
H22	8	H28	6年目	厚木市立病院(呼吸器内科)	神奈川県	繰り延べ3年
H22	9	H28	6年目	横須賀共済病院(脳神経外科)	神奈川県	繰り延べ1年
H22	10	H28	6年目	附属市民総合医療センター(呼吸器内科)	神奈川県	
H22	11	H28	6年目	横浜市立大学附属病院(皮膚科)	神奈川県	繰り延べ1年
H22	12	H28	6年目	横浜南共済病院(泌尿器科)	神奈川県	
H22	13	H28	6年目	横浜市立大学附属市民総合医療センター	神奈川県	繰り延べ半年
H22	14	H28	6年目	東京大学医学部附属病院(外科)	東京都	繰り延べ4年
H22	15	H28	6年目	横浜市立大学附属病院(内分泌内科)	神奈川県	
H22	16	H28	6年目	東京大学医学部附属病院	東京都	繰り延べ4年
H22	17	H28	6年目	横須賀共済病院(泌尿器科)	神奈川県	
H22	18	H28	6年目	横浜市立大学附属病院(病理科)	神奈川県	繰り延べ3年
H22	19	H28	6年目	近森病院(救急科)	高知県	繰り延べ4年
H22	20	H28	6年目	横浜市立大学附属病院(呼吸器内科)	神奈川県	
H22	21	H28	6年目	君津中央病院(整形外科)	千葉県	繰り延べ4年
H22	22	H28	6年目	横浜南共済病院(内科)	神奈川県	繰り延べ1年
H22	23	H28	6年目	昭和大学横浜市北部病院(整形外科)	神奈川県	繰り延べ3年
H22	24	H28	6年目	済生会横浜市南部病院(耳鼻科)	神奈川県	
H21	1	H29	5年目	亀田総合病院	千葉県	繰り延べ3年
H22	2	H29	5年目	横浜市大附属市民総合医療センター	神奈川県	繰り延べ2年
H23	3	H29	5年目	大和市立病院(泌尿器科)	神奈川県	
H23	4	H29	5年目	公立昭和病院(産婦人科)	東京都	繰り延べ3年
H23	5	H29	5年目	静岡県立こども病院	静岡県	繰り延べ1年
H23	6	H29	5年目	済生会横浜市南部病院(小児科)	神奈川県	繰り延べ1年
H23	7	H29	5年目	横浜美容外科大宮院	埼玉県	繰り延べ3年
H23	8	H29	5年目	国立精神・神経医療研究センター病院	東京都	繰り延べ3年
H23	9	H29	5年目	関東労災病院(循環器内科)	神奈川県	
H23	10	H29	5年目	武蔵野赤十字病院(救急科)	東京都	繰り延べ2年
H23	11	H29	5年目	藤沢湘南台病院(循環器内科)	神奈川県	
H23	12	H29	5年目	済生会横浜市南部病院(乳腺外科)	神奈川県	
H23	13	H29	5年目	小田原市立病院(小児科)	神奈川県	
H23	14	H29	5年目	三井記念病院(内科)	東京都	繰り延べ3年
H23	15	H29	5年目	横浜市大附属市民総合医療センター(眼科)	神奈川県	繰り延べ2年
H23	16	H29	5年目	都立墨東病院	東京都	繰り延べ3年
H23	17	H29	5年目	横浜市大附属病院(内科)	神奈川県	
H23	18	H29	5年目	横浜市大附属病院(消化器内科)	神奈川県	繰り延べ2年
H23	19	H29	5年目	神奈川県立こども医療センター(小児科)	神奈川県	
H23	20	H29	5年目	横浜市立市民病院(消化器外科)	神奈川県	繰り延べ1年
H23	21	H29	5年目	神奈川県立こども医療センター	神奈川県	
H23	22	H29	5年目	秦野赤十字病院(泌尿器科)	神奈川県	
H23	23	H29	5年目	国立がん研究センター中央病院	東京都	繰り延べ1年
H23	1	H30	4年目	誠心会神奈川病院(精神科)	神奈川県	
H24	2	H30	4年目	関東労災病院	神奈川県	
H24	3	H30	4年目	横浜市大附属病院(泌尿器科)	神奈川県	
H24	4	H30	4年目	横浜市大附属病院(脳神経外科)	神奈川県	
H24	5	H30	4年目	藤沢市立病院(内科)	神奈川県	
H24	6	H30	4年目	不明	不明	繰り延べ1年
H24	7	H30	4年目	東京都立駒込病院	東京都	繰り延べ2年
H24	8	H30	4年目	相澤病院	長野県	繰り延べ2年

H24	9	H30	4年目	横浜市大附属病院(病理科)	神奈川県	
H24	10	H30	4年目	横浜市大附属市民総合センター	神奈川県	
H24	11	H30	4年目	横浜労災病院(呼吸器外科)	神奈川県	
H24	12	H30	4年目	横浜市立大学附属病院(産科)	神奈川県	
H24	13	H30	4年目	横浜市立大学附属市民総合医療センター(眼科)	神奈川県	
H24	14	H30	4年目	横浜市大附属病院	神奈川県	
H24	15	H30	4年目	横浜南共済病院(内科)	神奈川県	
H24	16	H31	3年目	横浜市大附属病院(放射線科)	神奈川県	
H24	17	H30	4年目	相模原協同病院(整形外科)	神奈川県	
H24	18	H30	4年目	東京都済生会中央病院	東京都	繰り延べ2年
H24	19	H30	4年目	横浜医療センター	神奈川県	
H24	20	H30	4年目	日本医科大学付属病院	東京都	繰り延べ1年
H24	21	H30	4年目	NTT東日本関東病院	東京都	繰り延べ2年
H25	1	H31	3年目	近森病院	高知県	繰り延べ1年
H25	2	H31	3年目	横浜医療センター(整形外科)	神奈川県	
H25	3	H31	3年目	横浜市立大学市民総合医療センター(腎臓内科)	神奈川県	
H25	4	H31	3年目	聖マリアンナ医科大学病院(総合診療内科)	神奈川県	
H25	5	H31	3年目	藤沢市民病院(循環器内科)	神奈川県	
H25	6	H31	3年目	国際医療福祉大学熱海病院(内分沁内科)	静岡県	繰り延べ1年
H25	7	H31	3年目	小田原市立病院(産科)	神奈川県	
H25	8	H31	3年目	横須賀市立市民病院(循環器内科)	神奈川県	
H25	9	H31	1年目	横浜市立大学附属病院	神奈川県	
H25	10	H31	3年目	横浜労災病院(小児科)	神奈川県	
H25	11	H31	3年目	平塚共済病院(整形外科)	神奈川県	
H25	12	H31	3年目	小田原市立病院(小児科)	神奈川県	
H25	13	H31	3年目	横浜市立大学附属病院	神奈川県	
H25	14	H31	3年目	国立成育医療研究センター(小児科)	東京都	繰り延べ1年
H25	15	H31	3年目	横浜市立大学附属病院(放射線科)	神奈川県	
H25	16	H31	3年目	あさかホスピタル	福島県	繰り延べ1年
H25	17	H31	3年目	横浜南共済病院(呼吸器内科)	神奈川県	
H25	18	H31	3年目	横浜市立大学大学院(法医学)	神奈川県	
H25	19	H31	3年目	藤沢市民病院(外科)	神奈川県	
H25	20	H31	3年目	横浜労災病院(消化器内科)	神奈川県	
H25	21	H31	3年目	大和市立病院(消化器内科)	神奈川県	
H25	22	H31	3年目	相模原協同病院(整形外科)	神奈川県	
H25	23	H31	3年目	横浜医療センター(脳神経内科)	神奈川県	
H25	1	R2	2年目	聖路加病院	東京都	
H25	2	R2	2年目	国際医療福祉大学三田病院	東京都	
H25	3	R2	2年目	江戸川病院	東京都	
H25	4	R2	2年目	湘南藤沢徳洲会病院	神奈川県	
H25	5	R2	2年目	横浜市立大学附属市民総合医療センター	神奈川県	
H26	6	R2	2年目	東京都済生会中央病院 東京ベイ・浦安市医療センター	千葉県	
H26	7	R2	2年目	藤沢市民病院	神奈川県	
H26	8	R2	2年目	横浜市立大学附属病院	神奈川県	
H26	9	R2	2年目	東京品川病院	東京都	
H26	10	R2	2年目	横浜市立大学附属市民総合医療センター	神奈川県	
H26	11	R2	2年目	東京都健康長寿医療センター	東京都	
H26	12	R2	2年目	東京都立駒込病院	東京都	
H26	13	R2	2年目	小田原市立病院	神奈川県	
H26	14	R2	2年目	東邦大学医療センター大橋病院	東京都	
H26	15	R2	2年目	独立行政法人国立病院機構東京医療センター	東京都	
H26	16	R2	2年目	国立国際医療研究センター病院	東京都	
H26	17	R2	2年目	済生会横浜市南部病院	神奈川県	
H26	18	R2	2年目	横浜市立大学附属市民総合医療センター	神奈川県	

H26	19	R2	2年目	横浜市立大学附属市民総合医療センター	神奈川県	
H26	20	R2	2年目	藤沢市民病院	神奈川県	
H26	21	R2	2年目	横浜市立大学附属市民総合医療センター	神奈川県	
H26	22	R2	2年目	川崎市立井田病院	神奈川県	
H26	23	R2	2年目	国立国際医療研究センター病院	東京都	
H26	24	R2	2年目	横浜労災病院	神奈川県	
H25	1	R3	1年目	横浜市立大学附属病院	神奈川県	
H26	2	R3	1年目	横浜医療センター	神奈川県	
H26	3	R3	1年目	湘南東部総合病院	神奈川県	
H26	4	R3	1年目	横浜市立大学附属市民総合医療センター	神奈川県	
H26	5	R3	1年目	横浜市立大学附属市民総合医療センター	神奈川県	
H26	6	R3	1年目	横浜市立大学附属市民総合医療センター	神奈川県	
H26	7	R3	1年目	横浜市立大学附属市民総合医療センター	神奈川県	
H27	8	R3	1年目	けいゆう病院	神奈川県	
H27	9	R3	1年目	横浜市立大学附属市民総合医療センター	神奈川県	
H27	10	R3	1年目	横浜市立市民病院	神奈川県	
H27	11	R3	1年目	大和市立病院	神奈川県	
H27	12	R3	1年目	大和市立病院	神奈川県	
H27	13	R3	1年目	横浜市立市民病院	神奈川県	
H27	14	R3	1年目	藤沢市民病院	神奈川県	
H27	15	R3	1年目	横浜市立市民病院	神奈川県	
H27	16	R3	1年目	藤沢市民病院	神奈川県	
H27	17	R3	1年目	横浜市立大学附属病院	神奈川県	
H27	18	R3	1年目	NTT東日本関東病院	東京都	
H27	19	R3	1年目	済生会横浜市南部病院	神奈川県	
H27	20	R3	1年目	公立館林厚生病院	群馬県	
H27	21	R3	1年目	日本海総合病院	山形県	
H27	22	R3	1年目	横浜市立みなと赤十字病院	神奈川県	
H27	23	R3	1年目	藤沢市民病院	神奈川県	
H27	24	R3	1年目	横浜市立大学附属市民総合医療センター	神奈川県	
H27	25	R3	1年目	小田原市立病院	神奈川県	
H27	26	R3	1年目	神奈川県立足柄上病院	神奈川県	
H27	27	R3	1年目	札幌徳洲会病院	北海道	
H27	28	R3	1年目	東京大学医学部附属病院	東京都	
H27	29	R3	1年目	茅ヶ崎市立病院	神奈川県	
H27	30	R3	1年目	川崎市立多摩病院	神奈川県	

都道府県/卒業年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	合計
神奈川県	9	21	18	14	14	20	13	25	134
北海道	2							1	3
山形県								1	1
福島県						1			1
群馬県								1	1
埼玉県				1					1
千葉県			2	1			1		4
東京都		2	3	6	4	1	10	2	28
長野県					1				1
静岡県				1		1			2
高知県			1			1			2
不明	6	5			1				12
	17	28	24	23	20	24	24	30	190
県内定着率	53%	75%	75%	61%	70%	83%	54%	83%	71%

平成20年度入学者	20名
平成21年度入学者	26名
平成22年度入学者	25名
平成23年度入学者	25名
平成24年度入学者	25名
平成25年度入学者	25名
平成26年度入学者	25名
平成27年度入学者	25名
平成28年度入学者	25名
平成29年度入学者	25名
平成30年度入学者	25名
平成31年度入学者	25名
令和2年度入学者	24名
令和3年度入学者	25名
合計	321名

「医療従事者の需給に関する検討会 医師需給分科会第5次中間とりまとめ」の概要

医師需給分科会第5次中間とりまとめ（概要）

○ 令和4年1月の医療従事者の需給に関する検討会・医師需給分科会の合同会議において、医師需給分科会第5次中間とりまとめの議論を行い、令和4年2月7日にとりまとめを行った。

1. はじめに

○ 医師需給分科会は、人口構造の変化や地域の実情に応じた医療提供体制を構築するため、将来の医師需給推計、医師偏在対策等について検討を重ね、これまで4つの中間とりまとめを公表し、これらのとりまとめを踏まえて、関係者において様々な取組が行われてきている。本とりまとめでは、これまでの取組を総括するとともに、令和5年度の臨時定員を含め、今後の医師需給の考え方について整理を行う。

2. 医師の養成数と医師需給推計について

○ 平成20年度より地域枠等を中心に、段階的に医学部定員を増員することで、全国レベルで医師数は毎年3,500～4,000人程度増加している。中長期的な医療ニーズや医師の働き方改革を織り込んだ医師の需給推計を踏まえると、令和11年頃に需給が均衡し、その後人口減少に伴い将来的には医師需要が減少局面になるため、今後の医師の増加のペースについては見直しが必要である。

3. 医師偏在対策の概要について

○ 本分科会の検討を踏まえ、医師養成課程を通じた偏在対策が開始された。都道府県においては、改正医療法・医師法に基づき、医師偏在指標による医師確保計画の策定等が図られている。また、医師少数区域等での勤務に対するインセンティブの設定や外来医療機能の不足・偏在に対する対策も講じられている。

4. 将来の医師需給に関する本分科会の考え方

○ 中長期のマクロの医師需給の見通しに大きな変化はないと考えられるが、新型コロナウイルス感染症の流行のような事態にも対応できる医療提供体制の構築が求められている。

○ このため、今後は、地域医療構想の推進及びマクロの需給推計に基づく医師養成数の見直しに加え、改正医療法により位置付けられた新興感染症対策が盛り込まれた医療計画とその一部を構成する医師確保計画等の策定を通じて、適切な医療提供体制や適正な医師の配置について議論を深め、必要な措置を講じていくことが重要となる。

○ 令和5年度の医学部定員については、歯学部振替枠を廃止し、地域枠臨時定員として地域医療や社会におけるニーズに対応するための枠組みを充実させるために活用することとする。令和6年度以降の医学部定員は、医療計画の策定を通じた医療提供体制や医師の配置の適正化と共に検討する必要があるため、「第8次医療計画等に関する検討会」等における検討状況を踏まえ、検討する必要がある。

5. 今後の偏在対策等に関する提言

○ 地域における医師の確保を図るため、恒久定員を含む医学部定員に、地域の実情に応じて地域枠の設置・増員を進めていく必要がある。

○ これまで医師需給分科会で議論を進めてきた医師確保計画及び外来医療計画については、今後、「第8次医療計画等に関する検討会」において、医療計画や地域医療構想と一体的に議論されることが望ましい。

○ 診療科偏在の背景には、医師の専門分化が進んだことが一因として考えられるが、偏在対策を進める上では、限られた医療資源において、幅広い地域のニーズに対応できる総合的な診療能力を持つ医師を育成することが重要である。

○ 今後はICT・AIの進歩、タスク・シフト/シェアの推進、仕事と家庭の両立のための勤務環境の改善といった医師の働き方改革をめぐる要因も踏まえる必要がある。